非正規雇用下のシングルファーザー
－文献調査による検討－

○日本福祉大学大学院　修士課程　**小野江　優介**（010328）

キーワード３つ：シングルファーザー・非正規雇用・低所得

１．研 究 目 的

本研究の目的は，日本において行われてきた非正規雇用のシングルファーザー研究の文献検討を行うことにより，日本における非正規雇用のシングルファーザーの現状と課題について明らかにし，今後の支援および研究の方向性について考察を行うことである．

２．研究の視点および方法

日本におけるシングルファーザーはその 8 割ほどが正規雇用者もしくは自営業者であり，世帯収入もシングルマザーと比較すると平均 200 万円ほど高い水準となっている（厚生労働省 2021）．しかしながら，シングルファーザー全体がその高収入を享受できているわけではない．シングルファーザーにも低所得層は確かに存在している（庄司 1983）．これまでのシングルファーザー研究では，彼らの家族ケアの困難さと正社員であることによる時間的困難から仕事と家族との間の困難を描かれることが多く，非正規労働に従事するシングルファーザーへの検討が行われる機会が少なかった．ゆえに，社会階層や貧困の視点からの検討が必要になると思われる．

そこで本研究では以上の観点から先行研究を検討し，非正規雇用の労働環境下におかれるシングルファーザーについての現状と課題について考察を行う．

３．倫理的配慮

本研究は文献研究であり，一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程等を遵守するものである．本研究に際して，開示すべき利益相反はない．

４．研 究 結 果

シングルファーザーを対象とした先行研究からは，彼らの抱える困難は主に「経済的困難」「家事的困難」「仕事と家事の両立困難」「ジェンダー規範」「孤立」などの要素で構成されていることが示唆されている（春日 1989；浅沼 2016；村上・水野 2017）．

その中から非正規雇用下にあるシングルファーザー研究に注目すると，経済的な困難に対する言及が多くみられる．

たとえば，シングルファーザーの 7 割近くはひとり親になった際にそれまでの就業を継続しているが，「派遣社員」「臨時・パートタイマー」属性を持つ父親には，職場を変えた割合が高く表れているという（岩田 2009）．そして，岩田によれば，そうした属性を持つ者ほど経済苦を感じやすいとされている．

浅沼（2017）は，父子家庭を職業的安定度とケア負担度の高低で 4 類型に分類した．そ

の類型を用いて，浅沼は職業的安定度の低い父親への支援策として「家族ケアのどちらかにウエイトをおき生活が成り立つ社会環境の整備」「常時，父親が利用できる子どものケアを担う機関や支援者の創設と，そのことによる経済的負担の軽減を目的とした財政の整備」が必要であるとしている（浅沼 2020）.

一方，ひとり親家庭を支援する現在の政策では，金銭給付・相談事業のほかには就業支援が主な支援内容である．しかしながら，この就業政策は「マザーズ・ハローワーク事業」のように母親を主な対象とするものも含んでおり，シングルファーザーに対する支援は就業のための相談支援・金銭給付が主となっている（こども家庭庁支援局家庭福祉課 2024）.

５．考 察

以上の結果を概観すると，非正規雇用化におけるシングルファーザーは正規雇用化における時間的束縛からはある程度解放されているものの，代わりに経済的な困難を背負っていると考えられる.

公的支援においては，金銭的給付のほかに就業支援がひとり親支援の大きな柱となっているものの，正規雇用への就業支援が非正規雇用下のシングルファーザーの経済的困難を解決するとは一概にいえないのではないだろうか．なぜなら，彼らの多くはその時間的都合から非正規雇用に転身しているためである.

本人の事情や職業によらない子どもの成長を育むために，ひとり親への就業支援に依らない経済的支援の拡充が求められる.

これに加えて，浅沼（2020）からは，就業の安定しない層の父親においても子どもへのケア部分での困難を抱えていることが示唆されている．時間的束縛は緩和されているといえど，先行研究にて指摘されてきたように，非正規雇用下にあるシングルファーザーにも家族ケア部分でのサポートが同様に求められているといえるだろう.

今後の研究上の課題としては，非正規雇用下のシングルファーザーの視点からの検討が明示的に行われていないということが指摘できる．当事者視点を重視するため，現代の政策などが形作る社会構造のなかで，非正規雇用下のシングルファーザーがどのように生活を運営しているのか，エイジェンシーなどの概念を参考にしながらその多様性を明らかにしていくことが求められる（Lister =2023）.

主要参考文献

浅沼裕治（2016）「日本における父子家庭研究の動向と支援施策の課題:言説にみる問題の所在」『福祉図書文献研究』(15), 45-53.

浅沼裕治（2017）「子どもの性別・発達段階で異なる父子家庭の父親の家族ケアの困難性（1）6名の父親の語りにおける計量テキスト分析をふまえて」『中京学院大学短期大学部研究紀要』48（2），1-13.

浅沼裕治（2020）「父子家庭への効果的な社会的支援 －父親の語りによるテキスト分析から－」『日本福祉大学大学院福祉社会開発研究』15，1-9.

岩田美香（2009）「階層差から見た父子家庭の実態」『季刊家計経済研究』81，43-51.

春日キスヨ（1989）『父子家庭を生きる』勁草書房.

Lister．R（2004）Poverty，Polity Press.（=2023，松本伊智朗・松本淳・立木勝訳『新版　貧困とはなにか―概念・言説・ポリティクス』明石書店.）